

令和6年度全国学力・学習状況調査 本校の結果と今後の取組

織田中学校

このほど、本年度の4月に3年生対象に実施されました全国学力・学習状況調査（全国学調）の結果が届きましたので、概要をお知らせします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎないことをお断りしておきます。

1 各教科の結果

	国 語	数 学
福井県との比較	○	○
全国との比較	○	◎

※全国、県の平均正答率との比較

◎…5 ポイント以上上回る

○…±5 ポイント

△…5 ポイント以上下回る

2 質問紙の結果

- ・「学校に行くのは楽しいか」に対する肯定的回答（「当てはまる」と「ややあてはまる」の合計）が県・全国平均を上回りました。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と「友達関係に満足していますか」に対する肯定的回答の割合が高く、安心して学校生活を送っているとともに、学級の友人とともに学ぶ協働的な学習に対して前向きな意見を持っていることがうかがえます。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問に対し、1時間以上と回答した割合は県・全国平均を下回りました。一方で「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか」の設問に対し、1時間以上と回答した割合は県・全国平均を上回ったことから、家庭での時間の使い方に課題が見られました。しかし、9月に本校独自の調査を実施したところ、平日1時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が大きく増えており、家庭での時間の過ごし方に改善がみられます。

3 今後の取組

<国語>

- ・「要約する力」を育てるために、情報を読み、伝える対象や目的を設定して紹介文を書く活動を取り入れていきます。また、授業や日常で何かを説明する際には、相手の理解を意識しながら、具体と抽象の両方をバランスよく取り入れた書き方・話し方ができるように、日頃から取り組んでいきます。
- ・伝えたいことを分かりやすく伝えるために、また、説得力をもたせるために、どんな図表があるとよいかを吟味させて、説明や報告をするようにしていきます。

<数学>

- ・興味・関心を高めるために、「学びたくなる身近な課題の設定」や「学んだことの振り返りや、その知識が活かせる場づくり(紹介)」などに努めます。
- ・基礎基本を定着させる指導を継続しながら、特に数と式の文字を式で表す問題や、関数のグラフに関連した問題に対する深い理解を目指し、資料(文章、図、表、グラフなど)を用いて、思考力や判断力を高めていくようにします。そして、生徒が自分の意見と異なる他者の意見を共有しながら、多面的・多角的に考えを深めていけるような授業づくりに努めます。

<その他>

- ・今後も「すべての生徒が学びを実感できる」授業を目指して、日頃の授業改善に取り組めます。そして、授業の振り返りの時間を確保することで、生徒が自分の学びを実感し、家庭学習の充実につながるようにしていきます。
- ・安心感の醸成を基本として、生徒同士が関わりあう協働的な活動形態を設定したり、学校行事の企画や運営に生徒を参画させたりすることで、達成感や充実感を味わえるようにしていきます。